

(公社)落語芸術協会 理事  
落語家・真打

## 桂 小文治 氏

テーマ 落語の世界

- 開催校 八戸市立白銀小学校
- 日 時 令和6年11月8日 10:25~11:10
- 参加者 全校児童 139名



## START

### 桂さん登場！



はじめに先生から桂さんの紹介がありました。八戸出身であることや、現在落語家としてご活躍されていることなど丁寧に説明します。

桂さんに全員で挨拶をして、セミナースタートです！

### 落語とは？



壇上に上がった桂さん、早速、落語とはどのようなものか説明から始まりました。

落語とは高座に座り、右や左を向いて人物や情景を表し笑いをとることで、みんながよく知る漫才などとは違いがあることをお話します。



右や左を向くといっても、お芝居や歌舞伎と同じくルールがあります。上手と下手です。

下手には花道が用意され「外」を意味していることなどを身振り手振りで説明します。

## 表現方法を学ぼう



続いては表現方法について。話すときの声のトーンやスピードを工夫するだけで、あらゆる場面や人物を表現できるそうです。

遠くにいる人を呼ぶときは大きい声を出すのではなく、「やーーーーーい！」と長く伸ばすことや、やさしくゆっくり話すとおじいさんおばあさんの声になれること、声のトーンを上げ鼻に掛けるように話すと、こどもに変身できることを巧みに実演します！

変幻自在な表現に児童からは驚きの声が上がっていました。

## 「ダジャレ」が軸の小噺を披露！



表現方法について学んだあとは、「ダジャレ」を面白おかしく表現する小噺を次々と披露！

聞いたことのあるダジャレでも、桂さんの表現が合わさると、思わず笑ってしまいます。児童からは絶え間なく笑い声が聞こえていました。

物語から作られた小噺もあるそう。鶴の恩返しやはなさかじいさん等、よく知る物語にダジャレを組み合わせた展開の読めないお話に思わず聞き入ります。

他にも、動物を題材にした小噺など、たくさん披露くださいました。

## 落語の小道具を紹介！



ここで、小道具と音を使った表現について説明。  
落語で使われる小道具は主に扇子と手ぬぐいの2つです。

ポイントを押さえると、あらゆるものを表現できるんだそう。  
1つ1つ実演しながら紹介していきます。

### 扇子の表現



盃 (さかずき)

扇子を開きお酒を  
飲み干す表現



刀

目線の位置で  
長さを表現！



お箸

箸に見立てて  
おそばを食べます

### てぬぐいの表現



本

表情で  
悲しい本を表現



本

続いて面白い本



焼き芋

手ぬぐいを丸め  
美味しそうに食べます

## 落語を観賞しよう！



ここで落語を一席披露！  
古典落語の演目の1つ「転失気」です。

児童は転失気の正体を想像しながら、集中して  
落語の世界に入っていました。



ついに明かされた転失気の正体はなんと「おなら」！

まさかの正体と、次々とつながっていくこれまでの展開に、児童からは笑いが止まりません！

見事な一席に最後は大きな拍手が送られました。

## 落語やってみたい人！



「落語やってみたい人！」

児童から落語をやってみたい人を募ると、たくさんの児童が手を挙げてくれました。

挑戦するのは手ぬぐいを使った本の表現。

みんな思い思いに読んでいる本がどんな本なのか表現します。



面白い本



悲しい本



怖い本



面白い本

## 質問タイム



Q.  
なぜ落語をやりたくなったんですか？

A.  
大学のサークルである落語研究会に入ったのをきっかけに落語の魅力に取りつかれたから。



Q.  
緊張はしないんですか？

A.  
少なくなったけど、新しい小噺や慣れてない小噺、お客さんが少ない場面などで緊張することがある。  
緊張は悪いことではなく、自分がやることをもうちょっと変幻できる段階だから、決して怖がらず武器にしてね。

## 桂さん、ご講演ありがとうございました！

参加者全員で、桂さんへお礼の挨拶をしてセミナーは終了しました。



END